

## 「コミュニケーション紀要」

<b>【第36輯】</b>		<b>2026年3月 発行</b>
南 保輔, 西澤 弘行, 岡田 光弘, 坂井田 瑠衣	Using Snow Wall as Guides in Training Sessions for Persons with Visual Impairments: Toward New Developments in Multimodal Interaction Analysis	
山内 香奈	熟慮的ナラティブ生成モデル ——行動準備を支える意味生成過程の理論的枠組み——	
新倉 貴仁	《研究ノート》 1949年から1969年までの『事務と経営』の広告をめぐって ——「事務」の歴史社会学の予備的研究Ⅱ	
岡田 光弘, 南 保輔, 海老田 大五郎, 須永 将史, 河村 裕樹	《研究ノート》 Storytelling at DARC Meetings: Focusing on “Orientation to” the Topic of the Story	
<b>【第35輯】</b>		<b>2025年3月 発行</b>
南 保輔	ひとの認識と「変わらない」発話: 人生における変化にかかわるトークの研究	
山内 香奈	リーダーの採用面接評価に混入するジェンダー・バイアスの検討 ——女性リーダーの希少性と多元的無知に着目して——	
新倉 貴仁	〈研究ノート〉 「事務」の歴史社会学の予備的研究 ——雑誌『事務と経営』の占領期から1960年代末に関して——	
Mitsuhiro Okada, Yasusuke Minami, Daigoro Ebita, Masafumi Sunaga, Yuki Kawamura	〈研究ノート〉 Reporting One's Current State and Recovery at a Support Facility for Drug Addicts: Objectivation and Incarnation of Institutional Maxim in SMARPP Type DARC Meeting	
<b>【第34輯】</b>		<b>2023年3月 発行</b>
後藤 将之	出席している, ということ3 ——定期試験の現場での事例をめぐって	
南 保輔	人生の意味の喪失と薬物依存: フィンランド人NA メンバーAのライフストーリー	
新倉 貴仁	〈研究ノート〉事務機械の歴史社会学的研究に向けて— Yates, JoAnne, <i>Control through Communication: The Rise of System in American Management</i> をめぐって	
<b>【第33輯】</b>		<b>2022年3月 発行</b>
SHIBUYA Akiko TERAMOTO Mizuha SHOUN Akiyo AKIYAMA Kumiko	Long-Term Effects of Social Mechanics on Young Mobile Social Game Players in Japan	
新倉 貴仁	現代ナショナリズム研究のための理論的視座 —メディア技術の変容に注目して	
南 保輔	「同じこと繰り返してる」から脱却する契機としての施設移動: 薬物依存からの回復におけるワークの研究	
後藤 将之	《翻訳》教員ストレス目録 / マイケル・J・フィミアン 著 後藤将之 訳	
松村 一志	《書評》リー・マッキンタイア著, 大橋完太郎監訳, 居村匠・大崎智史・西橋卓也訳, 2020年, 『ポストトゥルース』人文書院.	
<b>【第32輯】</b>		<b>2021年3月 発行</b>
岡田 光弘	エスノメソドロジー研究は, 「三人称」の現象学なのか ——「実践学」としての「観察社会学」序説——	
後藤 将之	2020年の感染症流行時における遠隔高等教育の実践とリスクの管理 ——ウェブ経由での遠隔講義の実施と評価	

南 保輔	国境をまたぐ依存からの回復： 薬物依存からの回復におけるワークの研究
新倉 貴仁	制御技術の歴史——Mindell, David A., <i>Between Human and Machine: Feedback, Control, and Computing before Cybernetics</i> をめぐって
<b>【第31輯】</b>	<b>2020年3月 発行</b>
後藤 将之	George H. Mead のコミュニケーション論について (修士号請求論文, 東京大学大学院社会学研究科, 1982年12月提出)
南 保輔	ことば遊び表現のある映像作品の評価： 相互作用における「わかる」のコミュニケーション論的研究
新倉 貴仁	情報社会と制御革命——Beniger, James, <i>The Control Revolution: Technological and Economic Origins of the Information Society</i> をめぐって
ヴィルヘルム・ヴント著 後藤 将之 訳	精神共同体の発達 (『心理学概論』(1897)第21章、著者と共同でチャールズ・H・ジャッド英訳)
<b>【第30輯】</b>	<b>2019年3月 発行</b>
後藤 将之	授業出席行動の社会心理学的研究—出席管理を中心として： 出席している, ということ(2)
南 保輔	薬物依存者リハビリテーション施設におけるSMARPP： フィールド調査に見られる「効果」
南 保輔	映像作品の順位づけと想起の問題： AV機器を利用した相互作用分析の応用
<b>【第29輯】</b>	<b>2018年3月 発行</b>
アイヴォ・バーラム&ス ティーブン・クイン 後藤 将之 訳	MOJO: モバイル・ジャーナリズム・ハンドブック——iPhoneやiPadでビデオ放送を作る方法(部分訳)
南 保輔	スタッフを続けるのもおまかせ: ダルクスタッフAさんのライフヒストリー
南 保輔	「レイベリング論」から「相互作用論」へ(2): レイベリング論の自己増幅過程
<b>【第28輯】</b>	<b>2017年3月 発行</b>
南 保輔	映像作品視聴の経験的研究: AV 機器を利用した相互作用分析の適用可能性の検討
後藤 将之	小規模CSCW システムを利用した集合行動促進の実証的研究
<b>【第27輯】</b>	<b>2016年3月 発行</b>
新倉 貴仁	「メディア論」再考 ——マクルーハンにおける産業社会とナショナリズムをめぐって
標葉 隆馬	政策的議論の経緯から見る科学コミュニケーションのこれまでとその課題
南 保輔	「やめる」といえる自分をつくる： 「矯正教育プログラム(薬物非行)」の質的分析(2)
<b>【第26輯】</b>	<b>2015年3月 発行</b>
南 保輔	薬物使用経験を「わかる」の3基盤： 「矯正教育プログラム(薬物非行)」の質的分析
岡田 光弘	『Perspectives in Sociology』を経由してみる, もうひとつの「概エスノメソドロジー」 分析の社会学> —相互反映性という論点から—
後藤 将之	出席している, ということ ——授業出席行動の社会心理学(1) GPA視点の場合
南 保輔 古川 良治 都築 幸恵 新垣 紀子 中村 國則 森 暢平	批判的思考の測定法に関する基礎とその教育的応用に関する研究： 批判的思考態度尺度と4枚カード問題
<b>【第25輯】</b>	<b>2014年3月 発行</b>
	[放送トランスクリプト] 1959年皇太子ご成婚パレード, NHK 実況中継

平井 秀幸	「矯正教育プログラム(薬物非行)」の質的分析に向けて:
南 保輔	導入の背景とプログラム実施例の概要
岡田 光弘	『Perspectives in Sociology』に見たEthnomethodologyの自画像 —「気がつかないもの」と「気にもかけないもの」—
後藤 将之	[研究ノート] 討議・意志決定支援のための小規模デジタルCSCWシステムの運用実験 中間報告2——教室内での匿名条件下での討議と意思決定の促進
<b>【第24輯】</b>	<b>2013年3月 発行</b>
南 保輔	パーティリハーサルのマイクロエスノグラフィ: ディレクタのワークに照準して
川浦 康至 川上 善郎	日常生活における安心追求行動
NAKAMURA Hideyo	Illness Experiences and Medical Discourses: A Case Study about Recovery from Eating Disorders in Japan
後藤 将之	討議・意志決定支援のための小規模デジタルCSCWシステムの運用実験 中間報告——教室内での匿名条件下での討議への参加の促進効果について
南 保輔 海老田 大五朗	社会学的記述
岡田 光弘	「社会学的記述」について
<b>【第23輯】</b>	<b>2012年3月 発行</b>
後藤 将之	社会的攻撃性 social aggression についてのシンボリック相互作用論的研究 ——研究の経緯と予備調査の結果
<b>【第22輯】</b>	<b>2011年3月 発行</b>
南 保輔	ロボットラボにおけるコミュニケーション: 意思決定と教育コミュニケーション
南 保輔	「レイベリング論」から「相互作用論」へ(1): レイベリング論の事故増幅過程
後藤 将之	[研究ノート] 講義におけるオーディオ・ビジュアル素材の利用をめぐる具体的問題
<b>【第21輯】</b>	<b>2010年3月 発行</b>
南 保輔	アメリカの「日本人」高校生の文化アイデンティティと社会化体験: コミュニケーションエコロジー調査から
川上 善郎 川浦 康至	新型インフルはどのように語られたのか
<b>【第20輯】</b>	<b>2008年3月 発行</b>
南 保輔	徹子が黙ったとき:テレビトーク番組の相互作用分析
松田 光恵 川上 善郎	ペット意識尺度の再検討の試み—ペットブームを支えるペット意識の構造—
<b>【第19輯】</b>	<b>2007年3月 発行</b>
石山 玲子 川上 善郎	主観的現実をつくるメディアトーカーワイドショーのトークタイプと発言機能—
ハワード・S・ベッカー[著] 後藤 将之 永岡 達郎 趙 楠 三橋 愛彦[訳]	アート・ワールド(部分訳 その6)
<b>【第18輯】</b>	<b>2006年3月 発行</b>
森 暢平	新資料にみる昭和天皇・ニクソン会談
古田 尚輝	アニメーション製作の企業化に関する一考察
ハワード・S・ベッカー[著] 後藤 将之 永岡 達郎 趙 楠[訳]	アート・ワールド(部分訳 その5)
<b>【第17輯】</b>	<b>2005年3月 発行</b>
南 保輔	勤労倫理をどうとらえるか:価値比較質問紙調査から
古田 尚輝	『鉄腕アトム』の放送に関する時代考察～編成と産業の視点から～

石山 玲子 川上 善郎 大石 千歳 鈴木 靖子 松田 光恵	ワイドショーの構造分析ー形式の概念化とスタジオトークとの関連性ー
<b>【第16輯】</b>	<b>2003年3月 発行</b>
南 保輔	社会調査における倫理問題とフィールド調査:協力拒否と結果の代表性
川上 善郎 日吉 昭彦 石山 玲子 松田 光恵 鈴木 靖子	社会的現実を作るメディアトークーニュース報道の共鳴化ー
ハワード・S・ベッカー[著] 後藤 将之 海老田 大五郎 乾 唯明 坂西 勉 三須 糸津(訳)	アート・ワールド(部分訳 その4)
<b>【第15輯】</b>	<b>2002年3月 発行</b>
ハワード・S・ベッカー[著] 後藤 将之 乾 唯明 佐々木 美季[他](訳)	アート・ワールド(部分訳 その3)
南 保輔	海外帰国子女の学生経歴とライフコース:追跡調査に向けて
<b>【第14輯】</b>	<b>2001年3月 発行</b>
石川 弘義	大衆文化研究基礎文献集(2000年2月)
川上 善郎	阪神大震災はどのように語られたのかーパソコン通信における会話ー
ハワード・S・ベッカー[著] 後藤 将之 海老田 大五郎 大竹 雅子[他](訳)	アート・ワールド(部分訳 その2)
南 保輔	相互作用研究におけるフレームバイフレーム 分析の方法と可能性:文脈分析の概略とパソコンでの応用例
<b>【第13輯】</b>	<b>2000年3月 発行</b>
石川 弘義	マスタベーションの理論史
ハワード・S・ベッカー[著] 後藤 将之 海老田 大五郎(訳)	アート・ワールド(部分訳)
南 保輔	ラジオ野球中継の産出資源
<b>【第12輯】</b>	<b>1998年4月 発行</b>
山中正剛	<最終講義>老いと孤独ー阪神大震災仮設住宅の事例からー
石川 弘義	オナニーの社会文化史
磯田 一雄	研究ノート:「満洲・満洲国」日本語教科書の一断面
奥田 秀宇	不惑の認知的不協和理論
ダグラス・W・メイナート [著] 後藤 将之(訳)	クーリー=ミード賞のためにハロルド・ガーフィンケルを紹介する
古川 良治	放送・通信の融合とメディア機能
堀内 圭子	「個々の消費者が認識する商品価値」の概念に関する論考 ー経済学理論を導入してー
南 保輔	日本の学校への帰還:海外家族の帰国戦略
<b>【第11輯】</b>	<b>1997年3月 発行</b>
石川 弘義	様々な死ー「死の社会心理学的研究」ー
磯田 一雄	日本の植民地教育における教師と子ども
後藤 将之	THE PUBLISHED WORKS OF GEORGE HERBERT MEAD: A MACHINE-READABLE TEXT DATABASE
南 保輔	言語能力の帰属と異文化間コミュニケーション: 聴覚・視覚・触覚・背景情報が発話の解釈に及ぼす効果についての実験的研究
山中 正剛 奥田 秀宇	成城大学生の高齢者観(その1)ー成城大学生の親孝行に関する調査ー

<b>【第10輯】</b>	<b>1995年8月 発行</b>
川上 宏	川上宏先生年譜
有山 輝雄	民友社ジャーナリズムと地方青年
石川 弘義	アメリカのセクシュアリティ―「性革命」とそれ以後の変化―
磯田 一雄	研究ノート:台湾の日本語教育
ジョージ・バート・ミード 後藤 将之(訳)	有意味シンボルについての行動主義的説明
南 保輔	海外在住日本人母親のコミュニケーション行動 ―アメリカ合衆国サンディエゴの場合―
山中 正剛	阪神大震災とコミュニケーション―エスニック・メディアの活動と機能―
有木 靖人	ポスト・バブル期の新聞経営
君塚 洋一	マス・メディアの「公共性」と社会経済システム―「文化の生産」をめぐる社会学と経済学の間―
丸山 登紀夫	もうひとつのゼミ『川上ゼミ、タテの会』(川上宏先生の思い出)
関 佐喜子	幻の川上ゼミ(川上宏先生の思い出)
本橋 康治	「史上、最悪の弟子」より(川上宏先生の思い出)
庄 亜彩子	私の宝物(川上宏先生の思い出)
<b>【第9輯】</b>	<b>1995年1月 発行</b>
宮司 正男	宮司正男先生年譜
有山 輝雄	占領初期CI&Eのメディア統制―占領期メディア史研究―
石川 弘義	「悲嘆」と「悲哀」の研究
磯田 一雄	「文化侵略」と異文化間教育 ―九・一八以前の満鉄付属地における中国人教育を中心に―
ミシェル・ラモン 後藤将之(訳)	支配的なフランス哲学者になる方法―ジャック・デリダの事例―
Yasusuke Minami	Trans-Cultural Development and Shadowing
山中 正剛	メディアの外国人表現―外国人言説の読解に関する予備的研究―
<b>【第8輯】</b>	<b>1994年3月 発行</b>
岡本 奎六	岡本奎六先生年譜
青木 茂樹	中学校国語教材の内容分析
有山 輝雄	占領軍検閲体制の成立―占領期メディア史研究
磯田 一雄	日本の学校をどうとらえるか
大倉 恭輔	ポピュラー音楽研究における分野と方法について
川上 宏	広告の構造と広告の現在
後藤 将之	識閲下での説得効果に関する研究
宮司 正男	言語行動と非言語行動
山中 正剛	地域の交際化と行政のコミュニケーション対応
<b>【第7輯】</b>	<b>1993年3月 発行</b>
	築島謙三先生 年譜
堀川 直義	パリで暮らしたかった築島さん
宮司 正男	現代社会心理学研究に関する覚え書
後藤 将之	初期マス・コミュニケーション研究の一側面
有山 輝雄	天皇記者会見記事―事件と新聞
岡本 奎六	図書教材の内容分析(その1)
石川 弘義	青少年とマンガ・コミックスに関する調査
山中 正剛	地域国際化と来住外国人のコミュニケーション実態
白水 繁彦	ハワイ日系社会の文化変化
奥山 正司	老人の国際比較研究の意義と問題点
小林 宏一	競争市場下における放送メディアの変容
川上 宏	イギリス放送環境の変化とBBCの行く方
小松 茂実	『ヨーダ』のような築島先生
長岐 二美代	築島先生のこと
新井 誠	築島先生のこと
山本 弘子	築島先生のこと
南 博	日本人研究の方法について
<b>【第6輯】</b>	<b>1989年4月 発行</b>

宮司 正男 石川 弘義 牧 由美子 君塚 洋一 大倉 恭輔	山村生活の現代的変化と放送の機能
川上 宏	「天皇崩御」とマスメディアー1989年1/7～8の新聞を中心にー
<b>【第5輯】</b>	<b>1988年4月 発行</b>
有山 輝雄	大正期国民新聞と「民衆化」
岡本 奎六	教育雑誌の分析(その1)ー特集テーマの分類と考察ー
磯田 一雄	「国民学校教科書」研究ノート(下)
岡田 直之	現代生き甲斐に関する社会学的考察
<b>【第4輯】</b>	<b>1986年7月 発行</b>
有山 輝雄	言論の商業化ー明治20年代「国民の友」ー
石川 弘義	「死」の社会心理学(2)
磯田 一雄	「国民学校教科書」研究ノート(上)
岡本 奎六	アメリカにおける社会問題としてのテスト論争
川上 宏	広告「キーシンボル」に顕れた時代変化
宮司 正男	文字成立に関する論究再考
<b>【第3輯】</b>	<b>1985年3月 発行</b>
	南博教授 略年譜
石川 弘義	「死」の社会心理学(1)ーアメリカでの研究所を中心にー
磯田 一雄	「児童文化」としての教科書ー戦後教科書改革のー考察ー
岡田 直之	マス・コミュニケーションの過程 ー「コミュニケーションの2段階の流れ」仮説をめぐってー
小林 宏一	日本におけるニューメディア開発の現状とその動向
岡本 奎六	新聞に報道された偏差値教育問題の分析と考察(その I)
Mitsuko Saito-Fukunaga	Perspective of Communications EducationーJapan
<b>【第2輯】</b>	<b>1984年2月 発行</b>
宮司 正男	文字出現をめぐるー論考
有山 輝雄	明治20年新聞紙条例における正誤・弁駁の機能
小林 宏一	既存印刷メディアとの関連からみたテキスト・コミュニケーション・メディアの特性
磯田 一雄	現代教育における表現と習俗ーその系譜と課題についての覚え書ー
<b>【第1輯】</b>	<b>1983年3月 発行</b>
	堀川直義教授 略歴・著作目録
南 博	大戦末期「流言」と民衆意識ー軍関係資料をめぐってー
岡田 直之	マスコミュニケーション研究における3つの知的パラダイム
岡本 奎六	興味・態度・鑑賞の測定法に関する考察ー読書のそれを中心にー
石川 弘義	「厚生日本」にみる厚生運動の歩み
川上 宏	アメリカの対日世論1982年夏ー日本の対米輸出, 日本の企業進出を中心にー